

交流事業の参加者 interview

普段触れ合う機会が少ない外国人の皆さんと交流でき、親子でとても有意義な時間を過ごせました。もっと互いの文化や習慣を共有できる時間が増えればと期待しています。

今後互いの理解を深め、どんな時でも支え合い、協力し合える関係を築いていければと思います。



▶ 梶原 孝亮さん(左) 玲音さん(右)

皆さんと一緒に料理ができ、私たちの母国料理を「おいしい」と言ってくれて、本当にうれしかったです。今後は町内で見かけたら声をかけてほしい！優しい皆さんともっと話しをして、交流していきたい！

▶ 翠紅苑従業員 (左から) ガマンガさん サンジュさん スシラさん ナラヤニさん



●●● その他アンケートにいただいた声 ●●●

クリケットがあれば交流できる！

クリケットのルールを身振りなどで伝え、楽しく交流ができた。皆さんと名前呼び合えてとてもうれしかったので、もっとたくさん交流がしたいです！



▶ インド国籍男性

優しく笑顔がステキ！

防災教室で優しく声を掛けてくれて、笑顔でハイタッチをしてくれてうれしかった。外国人が「怖い」から「優しい」「笑顔いっぱい」というイメージが変わった！

▶ 町内小学生

外国人ともっと交流したい

外国人の皆さんと、祭りの準備から一体感を持って進められれば良かったと思いました。当日は、練り歩きだけでなく、もっと交流できる時間があればと感じました。



▶ 千頭区住民



特集 誰もが安心して暮らせる **ふるさと** を目指して

川根本町には現在、13の国から75名の外国人が移住、就労しています。本号では、町が抱える人口減少と労働力不足を補っている外国人材の受け入れについて考え、外国人を含め、誰もが住みやすい町を目指して始まった住民との交流事業の様子を紹介します。

外国人の定住⇨地域の活性化

現在、川根本町で暮らしている外国人の多くは、住民と関わる機会が少なく、互いの文化や習慣について理解が進んでいません。町の人口減少や労働力不足を補うためには、外国人を積極的に地域に受け入れることが必要になります。

そのような中、静岡県「外国人材のための第二の故郷創出支援事業」のモデル地域として採択され、町は昨年7月から県地域外交課と株式会社KAWANEホールディングスと協働して、さまざまな活動に取り組んできました。外国人と住民の活発な交流を促し、外国人の定住を図ることで、地域の活性化につなげることを目的の同事業。地域の祭りの担い手に外国人を呼び込んだり、一緒にスポーツや料理を作ったりするなどの交流事業を展開しました。

外国人と触れ合う3つの交流事業

第1弾は、10月15日の「敬満大井神社祭典」にインド人社員を抱えるゾーホージャパン株式会社に参加を呼び掛けたこと。当日、同社員も奇抜な衣装を着込み、地域を練り歩き、住民と一緒に練習をしたダンスを優雅に披露しました。参加したインド人社員は、「地域の人たちはみんなフレンドリー。いつも気さくに話しかけてくれて元気をもらえる」と笑顔で話しました。

誰もが安心して暮らせる町を目指して

第2弾は、全5回に渡って行われたスポーツ交流事業。同じくゾーホージャパン株式会社との協力のもと、インドで盛んな「クリケット」を楽しむ教室が開かれました。参加した住民は、社員からルールを教わりながらミニゲームを楽しみました。回を重ねる度に、互いを名前呼びながら、笑顔でハイタッチをしたりと親しくなっていく。最終日には記念写真を撮り合い、食事の約束をするなど交流を深めました。

また、第3弾の異文化交流事業として、町内事業所に勤めている外国人従業員の母国料理と一緒に調理する交流会や、小学生と外国人が共に防災について学ぶ防災教室などが開催され、子どもから大人まで広く外国人との交流を楽しみました。

今回の取り組みを通して住民からは「外国人ともっと交流したい」という声が多く上がりました。地域で外国人を受け入れるためには、お互いを知ることが必要です。地域が誰もが外国人を住民として受け入れ、共に支え合い、協力し合う環境を作るために、町はこの先も、異文化交流事業を継続していきます。

多文化共生社会の実現が人口減少解消の鍵

株式会社KAWANE  
ホールディングス  
迫 洋一郎 さん



外国人に川根本町を第2の故郷とってもらうためには、互いに困り事があれば助け、感謝し合うという『信頼関係』を築くことが必要です。

そのためにはまず、町内に住む外国人ひとりひとりの現状、どれくらい日本語で意思疎通できるか、抱えている問題は何かなどを把握して、地域で情報を共有することが大切です。一方で住民には、英語をコミュニケーションのための共通言語として、学

べる機会があればと思っています。交流を重ねれば、皆さんが自発的に「学びたい」という思いが高まるはず。その時に、そんな声に応えられるように英語を学べる勉強会を開ければと考えています。

外国人と接するとき、どうすればと悩むことがあると思います。ですが友人や家族と接することと何ら変わりません。相手に誠意を持って接すれば、きっと壁はなくなり、互いに理解を深めることができるはずで

第1弾 地域の祭りでの交流事業



▶ 千頭大祭で仮装して一緒に地域を練り歩き

第2弾 スポーツによる交流事業



▶ インドで親しまれるスポーツ「クリケット」を通じた交流

第3弾 異文化交流事業



▶ 町内に住む外国人と料理交流 ▶ 本川根小学校で防災教室